

NPO 法人ハートセービングプロジェクト

令和 1 年度年次レポート

[第 12 期年次総会]

議事

議案 1. 令和元年度事業報告

議案 2. 令和元年度活動計算書報告

議案 3. 令和 2 年度事業計画

議案 4. 令和 2 年度活動予算

会場 NPO 法人ハートセービングプロジェクト事務局会議室

ZOOM 会議形式

住所 東京都世田谷区下馬五丁目 17-12

電話 03-3487-9006

日時 2020 年 4 月 26 日

令和元年度事業報告総括

2001年に初めてモンゴルへ渡航して先天性心疾患児の診断と治療を行ってから、2019年で18年を経ました。これまでに治療カテーテル件数676件、診断カテーテル113件、経食道エコー15件を数えます。この度も、日本各地から多くの医療関係者の方々のご参加をいただきました。

令和元年度は3県4カ所のモンゴル地方検診と4回の首都ウランバートルでの小児の先天性心疾患患者の検診・治療活動、4回目のウズベキスタン国治療活動を実施いたしました。

モンゴル地方検診は4月末～5月1日にバヤンホンゴル県、8月にはオブス県とウヴルハンガイ県（県内2カ所）で実施しました。地方検診は2巡目に入っておりますが、地方の県立病院と中央の国立母子保健センターの連携が徐々にできつつあることを実感いたします。その一方で、小児循環器科のない地方病院では、心エコー診断装置が設置されてもその診断には限界があることも感じられております。

ウズベキスタンでの治療活動は3年目を迎えました。本年は12例の治療カテーテルを現地の医師とともに実施いたしました。ウズベキスタン国ではカテーテルの技術的なレベルは比較的高いものの、小児循環器疾患の診断や治療方針の決定、内科治療などについての啓蒙活動が必要です。また医療機器に対する公的補助の欠如は如何ともしがたいものがあります。

モンゴルの国立母子保健センターの「心臓カテーテル・血管造影室」は2014年11月に完成し、2019年11月で5周年を迎えましたが、昨年12月の活動の途中で透視装置が完全に止まるアクシデントが発生しました。国立母子保健センターには修理をお願いしているところです。

それぞれの活動の詳細につきましては、のちほどの「各事業の成果」をぜひご一読ください。

教育事業としては、6月に実施されたアジア国際小児医療学会（香川 四国こどもとおとなの医療センター）へのウンドラル医師（モンゴル国立母子保健センター）の参加を、11月に実施された日本小児心電図学会とInformal JPIC 関東甲信越研究会へのボロルマー医師の参加をサポートしました。

本年度につきましては、現在世界を席卷している新型コロナウイルス世界的規模の感染拡大を鑑みて本年度に入ってから活動時期を決定することになります。決まり次第ホームページなどでお知らせする所存です。

理事長
羽根田 紀幸

議案 1 令和元年度事業報告資料

令和元実施の各事業の内容と成果

1. モンゴル渡航治療支援活動

○ 5月モンゴル渡航治療支援事業（バヤンホンゴル県地方検診、カテーテル治療活動）

日程＝4月26日～5月3日

渡航人員＝医師9名、医学生2名、事務局1名 合計12名

(1) バヤンホンゴル県地方検診

今回の地方検診先はモンゴル国内線フライトのないエリアですべて車移動だったため、体力的にも時間的にも大変厳しいスケジュールとなりました。

バヤンホンゴル検診班に参加したのは、日本から渡航した5名、モンゴル国立母子保健センター小児循環器科からウンドラル先生、現地NPOからスタッフ3名が加わった総勢9名でした。

日本からのメンバーは4月28日朝に岡山空港と福岡空港からそれぞれ出発し、インチョン空港で合流したあと、現地時間17時(日本時間18時)にウランバートル・チンギスハーン空港に到着しました。空港で1時間ほど現地NPOと打ち合わせをしたのち、18時にバヤンホンゴル県へ向けて車で出発しました。ウランバートルからバヤンホンゴル県まで全走行距離640kmあまり、日本でいえば福岡から名古屋までの距離です。まずは途中の宿泊先である430kmのアルワイヘル市へ向かいましたが、途中で大規模な砂嵐が発生したためおよそ3時間足止めされ、同市内のホテルに到着したのは夜中の3時でした。

翌朝8時にホテルを発ち、さらに210km走り、バヤンホンゴル県立病院には午前11時半に到着しました。病院の関係者の方々が街はずれまで迎えに来てくださいました。この日は夜9時過ぎまで検診しました。



バヤンホンゴル県立病院での心エコー検診



現地の病院前でのメンバー

バヤンホンゴル県立病院ではのべ2日間活動し、初日に105人、2日目に124人の合計229人を検診しました。こちらの病院には、かつて国立母子保健センター小児循環器科で研修を受けた経験のある医師が在籍していて、成人仕様ではありますが心エコー装置が1台装備されていました。こうした関係で、心疾患患児の管理はほかの地域と比べてしっかりと行われていました。

これまでにGEヘルスケア・ジャパン様からポータブル心エコー機をお借りしていましたが、さらに今回フィリップス・ジャパン様からもお借りさせていただくことになりました。5月と8月のモンゴル地方検診で使用させていただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

(2) カテーテル治療活動

モンゴル国立母子保健センターでは115人の心エコー検診を行いました。うち13人は8月のカテーテル治療の候補となりました。治療カテーテルは16例、うち動脈管開存（PDA）10例、心房中隔欠損（ASD）が2例、肺動脈弁狭窄（PS）3例、大動脈縮窄（CoA）1例、診断カテーテルは2例、経食道心エコーは1例という結果でした。

国立母子保健センターの医師らがある程度、自立して治療を行うことができるようになってきているため、ハートセービングプロジェクトが滞在しているあいだの患者さんは重症ばかりという状況になっています。最近、渡航の際には必ずICUの患者さんを診るようになってきており、治療方針についてアドバイスを求められています。限られた医療のなかでどのように治療方針を立てていくかという教育も大切な活動です。

また、カテーテル治療も、第一術者、第二術者共にモンゴル人医師が行い、第三術者として日本側からサポートするかたちになっています。



ICUで診断をする片岡功一理事



治療を経て元気になったお子さん家族と
羽根田紀幸理事長

モンゴル滞在中に新天皇ご即位の祝典があり、代表の数名が在モンゴル日本大使館へ記帳のため訪問しました。新たな時代の幕開けとなる、厳粛な雰囲気の中でハートセービングプロジェクトの名前を残すことができ、参加したメンバーはみな大変感激していました。

○ 5月ウズベキスタン渡航治療事業

日程＝5月3日～5月7日（3泊5日）

渡航人員＝医師2名

2017年から始まったウズベキスタン国での活動は3年目を迎えました。5月3日夜、富田英副理事長と藤井隆成先生がウズベキスタン国タシケントに到着。活動先は昨年同様ヴァヒドフ記念病院です。到着翌日と翌々日の2日間で12例のカテーテル治療（うち2例は経食道心エコー）を現地医師とともに行いました。今回は日本で購入したデバイスをウズベキスタン国大使館のご協力で空輸していただきそれを現地の医師が受け取るかたちをとりました。しかし、空港での受け取りは予想通りスムーズには行かず、急きょ書類を整える必要が生じましたが、関係各位のご協力のもとギリギリで無事通関できました。ウズベキスタン国は旧ソ連時代の教育の賜物で外科の技術レベルは比較的高いのですが、手術室内で使用している備品やカテーテルは相当に年季の入ったもののように見受けられ、昔のモンゴルを彷彿とさせるそうです。一方で、私立病院は予算も潤沢にあるらしく、新たなカテーテル室ができているとのこと。この渡航での宿泊費、現地での交通費などの経費はヴァヒドフ記念病院がご負担くださいました。



現地医師を指導する富田英副理事長

治療を受けた患者さんと共に

○ 8月モンゴル渡航治療支援事業（オブス県地方検診+ウヴルハンガイ県・バヤンホンゴル県+カテ治療班）

日程＝8月7日～8月14日

渡航人員＝医師10名、看護師1名、医学生3名（うち1名は看護師資格有）、エドワーズライフサイエンス社1名、事務局1名 合計16名

ポータブル心エコー機はGEヘルスケア・ジャパン様より1台、フィリップス・ジャパン様より1台に加え、島根県環境保健公社様から羽根田理事長が借り受けたフクダ電子の心エコー機1台の合計3台をモンゴルへ持参しました。

（1）地方検診 オブス県

オブス県を前回訪問したのは2013年5月でしたので、6年ぶりの訪問でした。モンゴル国立母子保健センターからウンドラル医師、日本からは医師2名、医学生2名、事務局1名、HSPモンゴルから1名、活動への助成をいただいていますエドワーズライフサイエンス社から1名に駐日モンゴル国大使館から大東さん夫妻が通訳として加わった合計10名のチームでした。

一行は8月7日昼過ぎに出発予定でしたが、台風の影響で大幅に出発が遅れウランバートル到着は真夜中過ぎでした。翌朝8時から昼まで国立母子保健センターで28人の検診を行い、午後オブスへ向けて飛びました。空港には病院からロシア製ジープの救急車が移動用自動車として到着していました。この日は到着後、オブス湖畔でバーベキューの夕食を取りました。翌日は朝8時から検診を開始し、夜9時までのあいだに総勢114人を、2日目は、朝8時から昼12時までのあいだに41人の検診し、カンファレンスのち病院をあとにしました。のべ2日間で合計155人を検診しました。帰りの飛行機の路線は、国内線エアラインの急な変更により地方空港経由となったため、ウランバートルのホテルに戻ったのは夜中過ぎとなりました。



検診を待つ患者さん親子

オブス県立病院には心エコー機がないことがわかっていたため、日本から持参した心エコー機2台を使って検診を行いました。当然ですが現地のアリウマー医師は心エコー機を使用している検診の経験がなく、その指導を行いながらの活動でした。

活動中、MBC TVとサーマTVの2局が私たちの活動を取材に訪れました。



オブス検診での檜垣高史理事



オブス検診のメンバーです

(2) 地方検診 ウヴルハンガイ県アルワイヘル&バヤンホンゴル県ホジルト

ウヴルハンガイ県は 2008 年、バヤンホンゴル県は 2010 年ぶりです。メンバーはモンゴル国立母子保健センターからはエネレル医師、日本からは医師 2 名・看護師 1 名・医学生 2 名、現地 NPO から通訳 2 名と受付 1 名、運転手 2 名の総勢 11 名でした。

一行はモンゴル到着翌日に国立母子保健センターで今回の治療について打ち合わせをしてから、日本から持参したポータブルエコー機 1 台とともに最初の目的地であるアルワイヘルに向け雨の中を出発しました。途中の道は穴ぼこだらけで、到着まで 8 時間ほどかかりました。翌 9 日は朝 9 時から県立病院にて、日本からのポータブルエコー機と病院所有の成人用の心エコー機の合計 2 台で検診を行いました。ウヴルハンガイ県立中央病院はモンゴル国の地方中核病院のひとつで、他の地方病院と比較して設備・人員共にハイレベルでした。心エコー機があり、また小児用のプローブまでそろっていましたが、残念ながら現地医師は心エコー検査における評価判断がいまだできるレベルにはありませんでしたが、私たちとの活動に意欲をもって取り組んでいました。活動中、ハラホリンTVが私たちの活動の取材に訪れました。



アルワイヘルで検診中の田村真通理事



アルワイヘル&ホジルト検診のメンバーです

10 日の午前中までウヴルハンガイ県立病院で検診活動をし、2 日間で合計 108 人を検診しました。10 日の午後はさらに 60 km の未舗装の道を移動してホジルト村に夕方到着しました。翌 11 日の午前中、村の保健所で 19 人を検診しました。こちらには日本からの援助による超音波診断装置がありましたが、小児用プローブは備わっておらず、小児診療そのものがまだ行き渡っていない状況でした。昼過ぎに現地を出発、ウランバートルにはその日の夜に戻りました。

この活動中、地方検診 6 度目となる矢内先生がバイオリンを持参され、途中の草原で演奏されたのが大変すばらしかったこと、地方検診 14 度めとなる田村先生がモンゴル訪問で初めて観光の時間を持ち、エルデネゾー寺院を訪れて感動されていたことが大変印象的でした。

(3) カテーテル治療活動

モンゴル国立母子保健センターでは 8 日の 28 人を含め合計 104 人の心エコー検診を行いました。治療カテーテルは 20 例、うち動脈管開存 (PDA) 9 例、心房中隔欠損 (ASD) が 5 例、肺動脈弁狭窄 (PS) 5 例、心房中隔欠損+肺動脈弁狭窄 (ASD+PS) 1 例、診断カテーテルは 2 例、経食道心エコーは 2 例という内容でした。



日本・モンゴル合同の心カテーテルチーム



母子保健センター 病棟での回診

ICUの患者さん 4 人についての相談も受けました。そのうちの 1 人は中国の無償支援の枠組みにより上海で手術を受け助かったとのこと。オブス検診で診たうちのお子さん 1 人が重症だったため、ウランバートルまで同行してそのままモンゴル国立母子保健センターでカテーテル治療を行いました。治療内容は相変わらずシビアなケースばかりで、またデバイスやシースの在庫が潤沢でないため、神経を使う活動でした。また第三病院において先天性心疾患の成人患者 2 名の動脈管開存の治療カテーテルを行いました(上の 9 に含まれています)。

われわれが活動しているところへ七十代横綱日馬富士関が応援に訪れました。「横綱からパワーをもらった！」と一同大変感動しました。



○ 11月モンゴル渡航治療支援事業（カテ治療班）

日程＝11月1日～11月4日(3泊4日)

渡航人員＝医師5名、医学生2名、事務局1名 合計8名

モンゴル国立母子保健センターで合計83人の心エコー検診を行いました。治療カテーテルは15例、うち動脈管開存(PDA)10例(うち2例はcoil閉鎖)、心房中隔欠損(ASD)が3例、大動脈縮窄(CoA)が2例、診断カテーテルは1例(外科手術が必要という診断結果)、という内容でした。このほかに心房中隔欠損の1例では至適サイズの閉鎖栓がなく、入手できた中で一番近いものの留置を試みましたがサイズが合わないと判断し回収しました。モンゴル国立母子保健センターでは小児循環器科の医師が自立的に治療を行うことができるようになってきているため、日本から渡航するときの治療対象リストはおもに重症例ばかりですが、その中でもこの11月のリストは全員がかなりの重症でした。モニターを見ながら、カテ室に入らなかった医師への指導も併せて行っていますが、この2日間は大変密度の濃い活動でした。

実質2日間の活動時間で17例のカテーテル実施は大変なハードスケジュールで、2日間共に病院をあとにしたのが真夜中過ぎというものでした。この期間中に、ハートセービングプロジェクトが活動を始めてから通算で心カテーテル800例を、また、国立母子保健センターに「心臓カテーテル・血管造影室」が完成して5周年をそれぞれ迎えました。これを記念して、国立母子保健センター小児循環器科へ記念の盾と循環器用聴診器を贈呈しました。同病院の医師は循環器用聴診器を使うのは初めてで、その精度に感動していました。気温は例年よりもかなり暖かく、夜でもマイナス15度ほどでした。しかし、現地ではインフルエンザが大流行していました。



到着した一行



11月カテーテル治療活動に参加されたメンバー

○ 12月モンゴル渡航治療支援事業（カテ治療班）

渡航人員＝医師4名、事務局1名 合計5名

日程＝12月4日～12月7日

治療カテーテルは4例、うち動脈管開存3例、心房中隔欠損(ASD)、経食道エコー1例という結果でした。11月に段階で、来年まで治療を待てないと思われる症状の患者さんが2名いらっしゃったため、急きょ12月渡航を決定したもので、無事12月に治療を行うことができました。出発の日、搭乗予定のミアットモンゴル航空の機体に異常が見つかったとのことで、半日ほど成田空港で待機しましたが、最終的にフライトキャンセルになりました。そのため、成田から羽田へ移動し、羽田空港夜中3時発翌6時北京着の海南航空、10:50北京発13:20ウランバートル着のミアット航空を乗り継ぎ、のべ26時間をかけて現地入りしました。そのまま直接病院へ行き、すぐにカテを開始し、ホテルに戻ったのは夜中1時過ぎでした。翌日、透視装置が故障し、その後全く動かなくなりました。このため、6日は経食道エコーについての講義を行いました。一方で装置のメンテナンス担当の会社とやりとりをしましたが故障の原因は不明のままでした。



成田空港で会員の横綱と



急きょ渡航を決めた患者さんの治療は無事終わりました

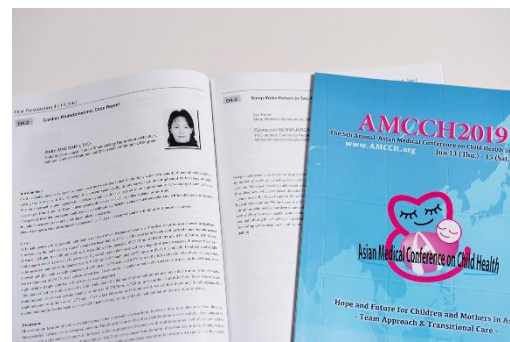
2. 教育事業

本年度はモンゴル国立母子保健センターから 2 名の医師を日本で開かれた学会への参加を目的として招聘いたしました。

(1) ウンドラル医師を 2019 年 6 月 13 日 14 日の日程で開催された第 5 回アジア国際小児医療学会に招聘し、発表をサポートしました。6 月 10 日に来日したウンドラル医師は、11 日愛媛大学病院で院内と心カテーテルを見学し、学会終了後の 15 日に東京着、翌 16 日にモンゴルへ帰国しました。四国でウンドラル医師の滞在中サポートをしてくださいましたみなさま、ありがとうございます。ウンドラル先生からは、学会発表前の多くの方々から大変熱心なご指導、また愛媛大学での充実した見学と、大変ためになる時間を過ごさせていただきありがとうございました、との感想をいただいております。



愛媛大学病院での心カテーテル見学



学会の抄録集

(2) ボロルマー医師を 2019 年 11 月 29 日に開催された第 24 回日本小児心電図学会に招聘し、発表をサポートしました。同医師は 11 月 27 日に来日し、当日までの 2 日間で発表について多くの方々からご指導をいただきながら準備をし、29 日に愛媛県松山市で開催された同学会にて発表を行いました。また、12 月 1 日東京女子医科大学病院で開催されました Informal JPIC 関東甲信越研究会にも出席し、翌 12 月 2 日に帰国しました。滞在中は関係各位にご指導いただき、またさまざまなお世話をさせていただきましたことを心から感謝します、とのメッセージをいただい

ております。

3. 広報活動

令和元年度も、大相撲の力士の千代翔馬関と、同じく大相撲の錦島太郎親方から番付と大相撲カレンダーの御寄付をいただきましたので、可能な範囲でご寄附をくださる方々へお配りいたしました。千代翔馬関、錦島親方、いつもありがとうございます。

また、随時、ホームページ、フェイスブック、ツイッターで活動を紹介してまいりました。

令和2年2月13日に、毎年モンゴル地方検診への助成をなさっているエドワーズライフサイエンス東京本社にて社員の方々およそ80名を対象に、ハートセービングプロジェクトの活動紹介をしてまいりました。約2時間半あまりの講演会の際、社員の方々との立食パーティーにもご招待いただきました。エドワーズライフサイエンス社様からは次年度以降の治療対象となった患者さんへのプレゼントとしておもちやセット90セットの物的寄附も併せていただきました。



(左上=2月13日エドワーズライフサイエンス社で行われた活動説明会、上=同社の社員の方と共に、左=令和2年度の患者さんへいただいたプレゼント。こちらを90セットいただきました。ウチワにはひとつずつメッセージが手書きで書かれています)

4. 救急車寄贈事業

2020年1月に広島市よりモンゴルの病院宛に救急車をお預かりしました。6月ごろにモンゴルの病院に到着する予定です。この事業は横綱日馬富士関の提案により始めたもので

すが、横綱の引退により、今後この事業はいったん休止する予定です。ご協力いただきました方々にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

5. 本年度も多くのおみなさまからご寄附をいただきました。ありがとうございました

○ 本年度ご寄附をいただきました団体様は以下の通りです（アイウエオ順、敬称略）。また、多くの個人のおみなさまからもご寄附をいただきましたが個人情報のため掲載を省略しております。心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

出雲小児科医会（島根県）／いのうえ小児科医院（島根県）／打田耳鼻咽喉科医院（島根県）／江口内科医院（島根県）／エドワーズライフサイエンス基金（米国カリフォルニア州アーバイン）／大分こども病院（大分県）／おおしろ小児科（山口県）／有限会社小川商事（神奈川県）／かなぐすくクリニック（沖縄県）／賀屋小児科（山口県）／からすやま小児科（東京都）／北村内科クリニック（島根県）／河野整形外科（岡山県）／後藤内科医院（島根県）／こどもの城おぐちこどもクリニック（神奈川県）

／
佐田診療所（島根県）／サノフィ株式会社（東京都）／鈴木小児科医院（山口県）／有限会社スロートレイン（大阪府）／全国心臓病の子どもを守る会島根県支部（島根県）／高梨医院（島根県）／玉名泌尿器科クリニック（熊本県）／歯科恒松医院（島根県出雲市平田町）／つむらファミリークリニック（島根県）／とうぎ皮膚科クリニック（島根県）／豊多摩通運株式会社（東京都）／公益社団法人日本医師会（東京都）／はまなか皮フ科クリニック（埼玉県）／ファイザー株式会社（東京都）／ファミリークリニックせぐち小児科（鳥取県）／古瀬医院（島根県）／北陽クリニック（島根県）／ますたに小児科医院（島根県）／嘉村医院（島根県）／りゅうじん医院（静岡県）

議案 2 活動計算書報告資料

令和元年度の会計財産目録と令和 2 年度の会計財産目録

科目	令和元年度	令和 2 年度
現金	95,045 円	149,081 円
貯蔵品(切手)	26,116 円	15,697 円
普通預金三菱 UFJ 銀行	7,108,673 円	6,394,709 円
普通預金 ゆうちょ銀行	3,703,138 円	1,699,732 円
普通預金 三井住友銀行	1,229,033 円	1,430,091 円
りそな銀行	9,137 円	9,137 円
郵便振替口座	0 円	2,568,914 円
	12,171,142 円	12,267,361 円

正味財産の増減および当期経常増減額はプラス 96,219 円でした。

令和元年度末の財産のうち指定正味財産(使用目的が限定された助成金額)は 1,603,350 円です。

これはエドワーズライフサイエンス社からの 2020 年度モンゴルでの地方検診向けの助成金です。

科目		令和元年度事業計画金額	令和元年度事業報告金額	
収入の部	会費収入	400,000 円	490,000 円	
	寄付金・助成金収入	10,000,000 円	9,463,434 円	
	受取利息	0 円	71 円	
	その他収入	0 円	0 円	
	小計	10,400,000 円	9,953,505 円	
	モンゴルでの物的サービスの受入	880,000 円	724,871 円	
	日本での物的サービスの受入	1,200,000 円	1,363,766 円	
	物的サービスの受入合計	2,080,000 円	2,088,637 円	
収入合計		12,480,000 円	12,042,142 円	
支出の部	事業費	現地で治療支援する活動	7,210,000 円	4,443,314 円
		日本で支援する活動	2,960,000 円	5,914,725 円
		教育事業	70,000 円	414,388 円
		来日治療支援事業	0 円	0 円
		救急車輸送事業	1,100,000 円	3,898 円
		日本で広報する活動	250,000 円	278,535 円
	事業費合計	11,590,000 円	11,054,860 円	
管理費合計		900,000 円	891,063 円	
支出合計		12,490,000 円	11,945,923 円	

令和元年度 事業別経費

平成31年3月1日から令和2年2月29日まで(施設等受入評価額含む)

事業	内容	日時	実施場所	従事者	支出額
国外 支援 事業	モンゴル国カテーテル治療渡航 事業～カテ1班	2019.4.28～5.3	ウランバートル 国立母子保健センター	60人	1,292,981円
	モンゴル国地方検診渡航事業 ～バヤンホンゴル県	2019.4.28～5.1	バヤンホンゴル 県立病院	50人	336,625円
	モンゴル国カテーテル治療渡航 事業～カテ2班	2019.8.11～8.16	ウランバートル 国立母子保健センター		1,439,369円
	モンゴル国地方検診渡航事業 ～ウヴス県	2019.8.8～8.11	ウヴス 県立病院	50人	462,029円
	モンゴル国地方検診渡航事業 ～ウヴルハンガイ県	2019.8.8～8.11	ウヴルハンガイ 県立病院	50人	114,924円
	モンゴル国カテーテル治療渡航 事業～カテ3班	2019.11.1～11.6	ウランバートル 国立母子保健センター	60人	1,244,497円
	モンゴル国カテーテル治療渡航 事業～カテ4班	2019.12.3～12.6	ウランバートル 国立母子保健センター	60人	277,760円
	ウズベキスタン治療渡航活動 第1回	2019.5.3～ 2019.5.7	タシケント ヴァヒドフ記念病院	30人	0円 (現地病院の負担)
国内 支援 事業	交通費(エアチケット含む)	2019.3～2020.2	東京	16人	3,221,597円
	医療関係消耗品	2019.3～2020.2	東京	16人	979,192円
	上記を除く渡航事業支援活動	通年	東京	30人	989,065円
	教育事業	2019.3～2019.12	東京・愛媛県	60人	414,388円
	救急車輸送事業	2019.3～2020.2.8	東京	30人	3,898円
国内 広報	(1)年間広報ツールの発送	通年	東京	50人	252,535円
	(2)ホームページドメイン費	年1回(寄付)	ウランバートル	30人	26,000円
現地 事業費総額					5,168,185円
国内 渡航治療事業費総額					5,189,854円
国内 広報事業 事業費総額					278,535円
国内 救急車寄贈事業 事業費総額					3,898円
国内 教育事業 事業費総額					414,388円
管理費経費					891,063円
合計					11,945,923円

令和元年度収入の内訳

会費	490,000円
寄付金	7,860,084円
受取助成金	1,603,350円
施設等評価益	2,088,637円
受取利息	71円
	12,042,142円

施設等受入評価益

施設等受入評価益とは、「無償又は著しく安い価格での施設の提供等物的サービス」のことです。以下の記載分はそのうち「客観的裏付けのある金額計算」されたものです。

なお、施設等受入評価益記載の寄付につきましては、原則、所得税・法人税控除の対象とはなりません。今後、所得税・法人税控除の対象としたい場合がありますら、国税局に個別に相談いたしますのでお申し出ください。

提供者名	金額	内容
Bayangol Hotel様	724,871円	80泊分宿泊費、Bayangol Hotel様との契約
モンゴル国内 物的サービスの受入合計	724,871円	
檜垣高史理事	360,303円	代理店からの見積書による
錦島太郎親方	85,000円	相撲番付600枚、相撲カレンダー50部
エドワーズライフサイエンス社	142,463円	患者さんへのおもちゃ90セット
千代翔馬関	30,000円	相撲番付600枚
エンフグジル バヤサル様	26,000円	公式HPの年間ドメイン料金
宇佐美写真事務所 事務所家賃	720,000円	契約書による
日本国内物的サービスの受入合計	1,363,766円	
国内外合計	2,088,637円	

※Bayangol Hotel (ハヤンゴルホテル) 様とは2015年に契約を締結し、年上限2,000万トゥグルグまで無料宿泊、それを超えた額については両者間で取り決めた金額(通常よりかなり値引きした金額です)を支払うことになりました。

以下のみなさまは金額の提示がなく物的サービスを提供された方々です

以下の方々には「内容」の無償提供をしていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

日付	提供者名	内容
2019年5月	ウズベキスタンヴァヒドフ記念病院 様	ウズベキスタン治療事業の滞在費及び交通費
2019年5月, 8月	株式会社フィリップスジャパン 様	ポータブルエコー機の無償レンタル
2019年5月, 8月	GEヘルスケア・ジャパン株式会社 様	ポータブルエコー機の無償レンタル
2019年8月	島根県環境保健公社 様	ポータブルエコー機の無償レンタル

議案3 令和2年度事業計画資料

令和2年度は、新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的規模の感染拡大を鑑みて、通常の活動をいったん停止することといたします。状況を随時判断しながら活動の開始時期を決定いたします。活動再開時期はホームページにてお知らせいたします。

次回のモンゴル地方検診の候補地はゴビスンベル県、ウムヌゴビ県、アルハンガイ県が挙がっています。

教育事業は今後日本で実施される学会の状況により変動します。

救急車事業については、すでに船での輸送の手続きが済んでいる救急車2台が6月にモンゴルに到着する予定です。モンゴルで授与式が行われるかどうかわかり次第こちらもホームページにてお知らせいたします。

令和2年度の後半に活動が再開できたと仮定して作成した予算書のご提示のみいたします。

議案 4 令和 2 年度活動予算資料

令和元年度 繰越額		12,267,361円
令和2年度 会費収入見込額		40万円
令和2年度寄付金見込額 (国内)		800万円
令和2年度 物的サービス等受入見込額(国内)		136万円
令和2年度 物的サービス等受入見込額 (現地)		70万円
令和 2 年度 収入見込合計		1046万円
国内支援事業 386万円	(1)モンゴル地方検診・カテーテル班 エアチケットを含む交通費 渡航人員のべ 30 人	300万円
	(2)ウズベキスタン治療活動 デバイス費用	30万円
	(4)ウズベキスタン治療活動 旅費交通費	30万円
	(5)国際通話料金	13万円
	(6)事務用品、消耗品、保険料ほか	13万円
現地支援事業 (モンゴル) 563万円	(1)現地での物的サービス(バヤンゴルホテル宿泊)	80万円
	(2)現地宿泊費(上限を超えての支払分)	40万円
	(3)現地交通費・宿泊費(地方検診)	70万円
	(4)モンゴル国立母子保健センターへ治療で使用の 物品代金25%	250万円
	(5)外注費(現地ボランティア日当)	14万円
	(6)医師免許等事務手数料および関税	10万円
	(7)車両関係費(ガソリン代、レンタカー)	23万円
	(8)出張旅費(食費、水等)	63万円
	(9)その他(通信費ほか)	13万円
教育事業	学会参加への招聘	30万円
国内広報事業	印刷物作成・郵送料など(施設等評価益含む)	25万円
救急車輸送事業	救急車輸送費	90万円
管理費	前年度と同様の内容として	90万円
支出見込額合計		1184万円
次期繰越予定額		1088万円